

大腸癌肝転移プロジェクト委員会議事録 N04

2011. 01.20

<活動報告>

1. 第3回合同委員の議事録の報告をした。

以下にその内容を示す。

- (1) 入力項目が煩雑である。
実際の例：化学療法について
手術前か、手術後か
複雑性
入力の手間今後の化学療法の内容の変化に対応
- (2) 化学療法の実施期間について
大腸癌研究会の委員のアンケート調査結果から
1か月⇒3か月と定義した： 3か月以内 3か月以上
- (3) **Grade3**以上の有害事象は、症例数として少ないため、内容を具体的に記載する。
- (4) 大腸癌の肝転移の症例の状態が複数にまたがるため、いくつかの症例区分に分けることで、即座にその部分に入っていけるようにした。
- (5) 肝胆膵外科で必要な入力項目：例) 背景肝の分類等
⇒専用の入力項目を色分けできるようにした。
- (6) 今後、合同で入力を行う。
- (7) 匿名化コードを一致させる。
- (8) 二段階切除と複数回切除の注意書きが必要。
- (9) 運用上NCDとの関係をどうするか。
- (10) データのクリーニングをどうするか。
- (11) 事務局を大腸癌研究会に置く。
- (12) 熊本大別府先生の肝胆膵外科学会の症例集積（2000年～2004年）1000例の分析結果が報告された。
- (13) 集積期間が異なるが、今後どうするか。
日本肝胆膵外科学会：2000年～2004年：1000例
大腸癌研究会：2008年：1304例

- (14) 今後の入力において、**prospective** な活用を考慮する。
- (15) 運用事務局に、追跡調査委員会、外部審査委員会（統計を含めた）を設置する。
- (16) データベースを各委員に配布し、チェックしてもらう。

2. 第3回合同委員会の未解決事項についての検討

(ア) N1c (tumor deposit) については、項目として設定する

(イ) 本データベースの管理は、大腸癌研究会に設置する。

3. データベース ver.7.5 を最終的なデータベース案とし、本データベースの問題点を明らかにするため、2009年度の肝転移症例の入力を大腸癌研究会の施設に依頼する。

4. 2008年のデータを委員の施設に送付し、データ解析を行う。その解析結果の検討委員会を2011年5月（日本外科学会の時）または6月に開催する。

5. データの活用方法（データの共有、学会発表）について、委員会を設置し、日本肝胆膵外科学会と協議、運営していく。

6. 共同プロジェクトにおける解析論文報告、発表に関する **authorship** について日本肝胆膵外科学会と協議する。

7. 症例を登録した施設が参加し、症例を解析し、検討できる研究会を今後開催する。